

平成30年 8月 市長定例記者会見

2018年 7月30日(月)

午後 1時30分 開始

【秘書広報課長補佐】 それでは、定刻となりましたので、ただいまから平成30年 8月市長定例記者会見を始めます。

まず最初に、お知らせを申し上げます。記者クラブの方に異動がございまして、本日初めてこの会見に参加されます記者の方をご紹介しますいただきます。

【記者】 <記者挨拶>

【秘書広報課長補佐】 ありがとうございます。

それでは、本日の会見の進行につきましては、お手元の次第のとおり、最初に市長の挨拶、その後、事業発表をいたします。質問につきましては、事業発表についてからお願いしたいと存じます。事業発表に係る質疑応答が終了いたしましたら、次第の3番目、フリーの質疑応答へと進行いたします。

なお、ご質問の際は、お手数でございますが、ご自席のマイクのスイッチを入れていただきます。ご質問の後はお切りいただきますようご協力をお願いいたします。

終了は14時30分を予定いたしております。ご協力のほどお願い申し上げます。

それでは、市長、よろしくをお願いいたします。

【市長】 皆さん、こんにちは。それでは8月の定例記者会見です。よろしく申し上げます。

心配しておりました台風12号は、おかげさまで無事に私どものところは通っていきましたので、敦賀市にとっては無事に済んだというふうに思っておりますが、7月の西日本の豪雨から始まりまして、まだ被災された方、そしてお亡くなりになった方がたくさんいらっしゃいまして、一日も早い復興とご冥福をお祈りしたいと思っております。

敦賀でも、派遣の要請がありまして呉市のほうに給水車が出ていましたけれども、だんだん復旧してきて水は足りてきたということで、帰らせていただいております。雨が降ったりするたびに、まだ暑い日差しを聞くたびに大丈夫かなと思っておりますが、本当に早く復興していただきたいと思っております。

また、もう一つの話題としまして、敦賀気比高校、3年ぶりに甲子園に出場することができました。市民全員で盛り上げていきたいと思っておりますので、ぜひともよろしく申し上げます。

【秘書広報課長補佐】 続きまして、事業発表をお願いいたします。

【市長】 続きまして、発表させていただきますが、福井しあわせ元気国体・障スポの敦賀市開催直前の市民決起集会の実施についてということでございます。

いよいよ福井しあわせ元気国体・障スポの敦賀市開催まで、残りわずかとなりました。目前に迫りました国体・障スポの開催に向け、市民の開催機運を高めるとともに、全国から訪れる多くの方へのおもてなしの高揚のために、8月26日日曜日に国体・障スポ敦賀市開催直前市民決起集会を開催いたします。市民サポーターや市民を対象としたおもてなし講習会や、敦賀市立看護大学の生徒によります救急救命講習会も実施させていただきます。

さらに、日本水泳連盟アスリート委員会とタイアップし、ロンドンオリンピック及びリオオリンピックの200メートルバタフライで銅メダルを獲得されました星奈津美さんを招

いてのアスリートトークショーも行いますので、ぜひお集まりいただけたらと思っております。詳しい内容につきましては配付資料をごらんください。

そしてまた、先週土曜日の台風12号の影響により中止となりました50日前記念イベントの炬火集火式につきましては、この市民決起集会の中で開催させていただきます。

8月中には、国体・障スポ正式競技開催に先駆けまして、デモンストレーション競技としましてドッジボールとウォーキングも開催いたしますので、よろしく願いいたします。

発表項目については以上でございます。

【秘書広報課長補佐】 それでは、ただいま発表いたしました項目についてご質問をお受けしたいと存じます。

最初に、幹事社さんからよろしく願いいたします。

【記者】 国体関係は特にございません。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社お伺いさせていただきたいと思います。発表項目につきまして、ご質問がありましたら挙手のほうをよろしく願いいたします。

【記者】 星さんがアスリートトークショーにいらっしゃるということです。これは水泳がここで開かれるからということなののでしょうか。それとも、特に何か結びつきとか、そういうゆかりがあったりするんですか。

【市長】 それは担当のほうから。

【教育委員会事務局長】 教育委員会です。よろしく願いいたします。

敦賀市におきましては、正式競技で競泳競技が開催されるというご縁がありまして、日本水泳連盟とのタイアップで星奈津美さんの招聘ができませんでしたので、このイベントをきっかけに、ぜひ機運を高めていきたいと考えています。

【秘書広報課長補佐】 それでは、ほかにいかがでしょうか。よろしいですかね。ありがとうございます。

それでは、次第の3番目、フリーの質疑応答へと行きたいと思います。これも幹事社さんからよろしく願いいたします。

【記者】 市長、先ほど台風12号の影響のことで、幸い本市、特に問題はなかったと思うんですけれども、消防関係だと思うんですが、来迎寺橋のあたりに土のうをどんどん積み始めたのは、いつぐらいから積み始めたんですかね。私、以前、二十何年ぐらい前、来迎寺橋のあたりは余りそんな氾濫するような感じではなかったと思うんですけれども、地盤が下がっているのかなと思ったりして。消防、もし出ていたら、そんなことは影響がないのか聞いてみたいなと思ったんですけれども。

【市長】 消防でなくて土木のほうで積んでいますので。

【記者】 地盤下がってないですかね。

【市長】 地盤が下がっているわけじゃなくて。

【建設部長】 私の記憶しているところでは、去年の8月の台風のときに、まず県土木が積みまして、それ以降は市のほうで積んでおります。これで3回目というところでございます。

【記者】 地盤は調査、一応していますか。高さは。

【建設部長】 県土木のほうから話は聞いております。高さのデータはいただいています。

【記者】 下がっていますか。

【建設部長】 整備計画の高さと比べれば低いところがあるというふうに聞いています。

【記者】 済みません、ちょっと追加で。それは何か、やっぱり長きにわたって少しずつ下がったんですかね。

【市長】 いやいや。下がったから積んでいるわけじゃないんです。水のかさが増したので積むようになっただけなので、堤防の高さとは関係してないんです。

【記者】 そうですか。トラックの通行が昔より多くなっているのです、もしかしたらそうなったのかなと思ったりもしたんですけれども。

【秘書広報課長補佐】 続きまして、同じく幹事社さん、よろしくお願いいたします。

【記者】 先週、もんじゅが、燃料取り出しの訓練が延長ということで、今月末という予定をしていたのが来月中もしくは来月以降となったんですが、東京で、副市長、行かれていたんですが、市長、改めまして、それに対しての所感というかお考えというのをお聞かせ願えますか。

【市長】 副市長が行ってお話をされたので、ほとんど同じことになりますけれども。

私としますと、まず安全にということが第一ですので、工程が多少延びてもそれは構いませんので、慎重に、安全最優先に進めていただきたいというふうに思っております。

ちょっと延びたということにつきましては、当初の工程の検討段階で見通しが甘かった側面もあるんじゃないかなということは感じています。

【記者】 追加で。見通しが甘かったことに対しては、市長のお気持ちとしては残念というか憤りというか、そこら辺の感情的な部分ではいかがでしょうか。

【市長】 廃炉措置につきましても、国の予算を使った中での機構さんの事業ですので、できるだけ早くということはお気持ちの中であるんだろうというのはあります。ただ、それで日程ありきで進めるんじゃなくて、こうやって立ちどまって、遅れてでもきちんとしていたいという方が、私にとっては、皆さんの安全につながっていくのでいいんじゃないかと思っています。

ただ、本当は予定どおりにやられるのが一番いいんでしょうけれども、無理している中で、余裕がない中での日程であれば、それはそれで仕方ないのかもしれない。

【記者】 最後に1点。これは廃炉の第一歩というか、非常に大事な入り口のところでつまずいたということなんですが、それに対してはどのようにお考えでしょうか。

【市長】 ちょっとつまずくのが早いんじゃないかなと思います。

例えがうまくいかないかもしれませんが、例えば、今ですと庭先で花火をしますよね。花火をしようと思ったら、練習として、花火をつけてうまくいきましたよ、だけではなくて、そこに見に行ったときに、草が生えてないかとか、燃えやすいものがないかとか、水の準備は大丈夫かとか、いろいろ準備をすると思うんですけれども、そういうことを加味しながら事業を進めていかないと、要は訓練をしていかないと、うまくいかないと、思いますので、その辺を加味しながらの試験工程であってほしいですし、実際の訓練であってほしいと願っています。

【記者】 先般のもんじゅの説明のときに、国の方に片山副市長が行かれたわけですが、本来、大きな変更事項に当たるときは、やはり国の方から、予算措置の関係とは別に、国から自治体の方にご説明に来られてもいいのかなというふうに私思ったんですけれども、片山副市長も行政マンですから国との関係はいいかと思えますけれども、このあた

り、市長、行政の長としてどんなふうに思われましたでしょうか。

【市長】 国から私どものところに説明に来ていただくというのも一つの手法だと思いますけれども、今回のもんじゅ連絡協議会を開いていただいたというのは、もう少しきちんと捉えていただいた結果かなというふうに思っていますので、ただ単純に誰かが説明に敦賀まで来ましたというよりも、東京のほうで連絡協議会を開いていただいたと。またそれについてはマスコミの皆さんにも報道されますので、その方がよかったのかなと思っています。

【記者】 立地の記者としては、なかなか行きにくいというのが逆にありますけどね。

【市長】 ちょっと早目にご連絡できるといいんですけども、私どもも日程いっぱいっばいで聞いているので。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社お伺いします。ご質問がありましたら挙手をよろしくお願いたします。

【記者】 今の関連で、来月から予定では核燃料体の取り出しが始まるわけですが、こういうトラブルが今月に入って4件ある中で、機構に求めることと、あと、監督責任がある国に対して求めることというのはどういったことがあるのでしょうか。

【市長】 機構に対して求めることは、先ほども申しましたけれども、何よりも一番安全が大事ですので、安全にきちんと予定どおりに作業を進めていただくというのが大事だと思っています。

国につきましては、片山副市長のほうも連絡協議会のほうでちょっとコメントがあったと思いますが、国が事業者に任せるのではなくて、国も一つの監視をきちんとして、一体となって安全性を確認していただきながら進めていただきたいということを思います。

【記者】 質問がちょっと違うんですけども。この前、敦賀気比高校が甲子園の出場を決めまして、あさってにも壮行会が開かれるということなんですけれども、改めて、地元の市長さんとして、今回、気比高校のほうで甲子園に出場することについての所感のほうをお願いいたします。

【市長】 地元の高校が甲子園に出るとというのは、やっぱり敦賀の宣伝にもなりますし、全国の皆さんに、この読みにくい敦賀という名前を覚えていただけるということで、非常にありがたいことだと思っています。快進撃を進めていただいて、ぜひ敦賀気比の名前を全国にとどろかせていただきたいと思っていますし、日程が合えば私も応援に行きたいと思っています。

【記者】 応援メッセージといいますか、期待することありますとか、選手にかけてあげたい言葉というのはどういったことがありますでしょうか。

【市長】 今回初めての子どもたちばかりだと、3年ぶりなので、今日も言っていましたので、長い練習の成果を十分に発揮して、悔いのない試合をしていただきたい。悔いのない伸び伸びとしたプレーをしていただきたいと思います。

【記者】 ちょっと話が戻りますが、もんじゅのことなんですけれども、非常に基本的なこととか改めてお伺いするんですが、今、安全第一に進めてもらうのが一番。それはそのとおりでと思うんですけども、いろんな説明があつたり、工程はこういうふうになりますというような報道があつたりということですね。具体的に作業に入るところでちょっとスケジュールが延びてということですね。それをお聞きになって、どうなんでし

よう、どこら辺が不安の源なんでしょうね、市長としては。

いろいろ技術的には経験もあるしというようなことも報道されていますし、一方で難しいんだというお話もありますし、もう一方では組織の体質ということがずっと言われています。市長さんとしては、どこら辺に不安の一番の要因というのがあるとお考えなのでしょうか。

【市長】 何か難しい質問ですね。もともと平成7年にナトリウム事故が起きてから、細かいトラブルがずっと起きてきていたもんじゅなんですよね。それでも地元とすると国策だということで応援してきたわけなんです。

廃炉についても細かいミスが結構あるというのがあります。ですから、ちょっとしたミス、ちょっとしたトラブル、ふたを閉め忘れたみたいな、そんなトラブルが結構ありますので、私もそうですけれども、余り緊張し過ぎても失敗しますけれども、余りラフになってしまうとだらだらになってしまいますし、その中で適度な緊張感を持ちながら自分らの仕事に対して誇りを持ってやっているのか。そしてまた、それがちゃんとできるように事前準備とか自分の中で、また組織でシミュレーションしているのかということが余り伝わってこないの、その辺が一番いらいらするもどかだと思います。ですからヒューマンエラーとか凡ミスが一番腹が立ちますし、それをしないためにどうしていくのかということをやっぱり考えていただきたい。

今回も、3カ月ほどほかのことで忙しかったので洗浄せずに置いていたと。それでうまく動かなかったんだと。それって、もともと作業して終わったらきれいに片づけて収納するのが当たり前でしょう。そこにいないからでしょうということになってくると、規律とか組織の士気というか意識というか、その辺がきちんとしていただきたいところです。

【記者】 ありがとうございます。

多分僕らも含めてですけれども、どういうところに立脚してこれからの作業を見るのかという上では、今市長がおっしゃったようなことも一つですね。市の側がどういうスタンス、ポイントに置いて何を見ていくのかということところが一つ私たちも関心を持っているところですので。ありがとうございます。

【市長】 ほかの担当はほかのところを見ていると思いますので。

【記者】 もんじゅの廃炉に関する地域振興のことについてですが、国から、去年の年末からですか、回答を受けていますけれども、ちょっと具体的になっていない部分も結構ありまして、概算要求を前に、市から改めてもんじゅの廃炉に対する地域振興の具体策というのを求めたりすることはあるのでしょうか。

【市長】 ハーモニアスポリス構想とか拠点化という話はありませんけれども、もんじゅを進めていくことに連動して何かしようとか、それを盾にして何かしようという気は今のところ私はないです。それはそれで約束していただいたことだからしてくださるでしょうと、そういうところは信頼していますし、もんじゅについて、廃炉措置については粛々と安全にやっていただければそれが一番いいことだと思いますので、その流れを止めようという気は全くないです。

【記者】 同じくもんじゅのことなんですけれども、国の指導強化をという、片山副市長も直接国の方に伝えられたと思いますけれども、国のほうでは、安全監視チームであるとか現地対策チームであるとかそれなりの体制をとっていたわけですからけれども、それでもな

おかつ今回のように工程がちょっとずれ込むようなことが起きた。このことについては、市長、いかがお考えですか。

【市長】 どのくらい関わっていらっしやったかということによると思いますけれども、足りないのもっと関わってほしいというところがあります。

規制委員会につきましても委員さんが張りついてほしいですし、知事も述べられていましたけれども、地元のほうにたくさん配置をしてほしいということもありますし、規制委員長の方は、大人だから余り教えないんだみたいなこともおっしゃっていますけれども、わからないことはやっぱり教えていただいて、要はきちんとできるように、どうしたらいいのかというのをみんなで考えていただきたいと思います。

【記者】 体制も含めて、現状ではまだ国の指導、監督が不十分だとお考えでしょうか。

【市長】 体制については今の体制でいいんだと思いますので、関わり方をもう少し工夫していただければというふうに思っています。

【記者】 先般来からうちの記事にさせてもらったんですけれども、フグを学校給食で使うという話ですけれども、あれは、市長、決定ではあるかどうかわかりませんが、予算化のめどとかは今後どうなっていくのかなど。敦賀のフグ、だんだん認知度が下がっているかもしれないのでPRが必要なんじゃないかと個人的に私は思っていますけれども、取材した中で、何か年内、強力なPRスケジュールがあれば教えていただけないかなど。

【市長】 フグを給食で使うというのは、もくろみがあると思いますので、実現性については教育委員会のほうで答え願えればなと思います。

【教育委員会事務局長】 教育委員会です。

今年度、県の補助を受けまして、地場産食材を使った給食の普及ということで、敦賀ふぐについても、量の確保であるとか、金額がお高いでするので調理の献立について関係者で検討しているところでございます。まだ、いつ、どういう形でということまでは決定をしておりませんが、提供できるように検討を進めているという状況でございます。

【記者】 ほかの自治体は実際使っている事例がもう既にあると思うので、県の補助も口数は決まっているので大体わかるわけですよ、今のところ。どれぐらいあったらいいですか、県の補助。

【教育委員会事務局長】 県の補助は1食当たり、児童生徒1名150円という補助をいただくんですが、例えばですけれども、唐揚げとかをしようと思うと単価が高くなるので、それをフグ汁にするとか、そういった調理方法を工夫して提供できないかということを検討しているところでございます。

【記者】 わかりました。

それからもう1点。フグの年内のPRの予定がもしあったら。敦賀ふぐのPR予定。

取材をする中で、だんだんブランドロイヤリティが下がってきているんじゃないかと心配する声が強いものですから。

【副市長】 そういった声があることも踏まえながら、今年の冬、どんなPRをしていくかと。フグだけじゃなくて、一遍検討はさせていただきたいなと思います。

【記者】 一応今のところ、年内どこかへ行くというのは決まってないわけですか。

【副市長】 若狭湾観光連盟とか県の観光連盟とか、そういったところは県外で物産展等をやっております。そうしたところへ持って行ってPRできるかとか、そういったことも

含めながら、地元の方がブランド力が下がっているんじゃないかと危惧していらっしゃるということなんですね。そういう声を聞きましたものですから、そういった声も踏まえて何らか対応をとっていかなくてはいけないだろうなど。何をやるというのはちょっと決まっております。

【産業経済部長】 産業経済部でございます。

産業経済部のほうでは、毎年行われます観光物産inみなと敦賀ということで、10月20、21日の両日、フグ鍋を販売する予定でございます。県内外多くのお客様にお越しいただいておりますので、こちらのほうでもPRを図っていきたいというふうに考えております。

【記者】 ちょっとこれも意見だけですけれども、もし市長がどこか県外に行ってPR、先頭に立たれるというようなことがあったら、その日程をまた後日、もしあれば教えてもらいたいなど。新聞に心配事を言うてくるというのは相当心配している状態だと思いますので。

【市長】 ありがとうございます。

フグの生産者の方からも給食に協力するよという話は一応いただいているので、実現するように担当の方で頑張っていると思いますし、要はいろんなところとの交流都市とのつながりで、販売に行ったりするところにも出られるような工夫はできないかということも一応検討しておりますが、今、片山副市長がおっしゃるように、まだ言えるような状態ではないです。

ただ、ムゼウム関係で有名な方が来られたときとか、そういうときにできるだけフグを食べさせるようにしております。外国の方とかフグを食べたことがない方がいらっちゃって、毒があって食べれないんじゃないかなとかそういうことを言われるんですけども、敦賀は養殖をしているので毒がないんだよ。だから食べても死なないよ。心配だったら私が食べた後に食べればいいよという話で宣伝はしております。どこかでPRするときにはお声かけさせていただきます。よろしくお願いします。

【記者】 もんじゅのことで、多分これまでの会見でも何度も市長は説明されていると思うんですけども、改めて確認したいんですが、使用済みの核燃料であるとかナトリウムの取り出しが終わったらできるだけ早く県外に持って行ってほしいというのが福井県、敦賀市の主張だと思うんですけども、その理由を改めて説明していただけますか。

【市長】 理由ですか。地元とすると、国策に従って応援してきておりますので、できるだけ負担は少なくしてほしいというのがあります。もんじゅのナトリウムにつきましては、もう廃炉と決まったわけですから、要らない物だったら早く出して早く外に持って行ってねということが基本です。使用済み燃料とかほかの放射性廃棄物につきましても、地元には置くのではなくて、当然どこかに持って行って処分するのが当たり前でしょうというスタンスですので、早くほかに持って行ってねということが基本的な部分です。当たり前のことでしょうかという考え方だと思いますけれども。

【記者】 今のおっしゃり方で、そういうことはないと思うんですけども、地元のサイト内での処分というのはとんでもないというお考えだということではよろしいでしょうか。

【市長】 はい。敦賀市としても、福井県はわかりませんが、敦賀市として地元で処分をしましょうということはお約束をしておりますので、当然外に持っていただけるもの

というふうに思っています。

【記者】 もんじゅなんですけれども、1点だけ。通告がかなり直前に延期という発表になっていたと思うんですが、あのタイミングでの打診というか連絡というのは遅いとお考えでしょうか。

【市長】 いつ決まったかというタイミングがよくわからないというところが正直なところなんですけれども、前からわかっていたのか、やっとわかったのかというところがよくわかりませんけれども。ですから、遅いかどうかという判断はできないんですけれども。日程的には急に言ってきたので急に対応したという形です。

【記者】 重ねて申し訳ありません。市長、これは若干原子力に関わることだと思うんですけれども、半島の西浦地区の海岸線に面した道路なんですけれども、あそこは地元を回ってみますと、冬場、積雪のときの道路の狭さと、それから朝方、8時前後の原電のトラックの行き来で、なかなか道の対面通行が難しい時間帯が結構あるみたいですね。季節的にも冬場は物すごく難しい。県議会の方で、あそこを拡幅するとかいう話があったみたいで、そういう要望が出ているみたいなんですけれども、市長、特にバックアップしようとかということはない状態ですか。市役所はどんな立場なのか。あそこは市道なのかどうかもちょっとわからない。一部市道があるんですか。手とかそのあたりですか。西浦の道路の。

【市長】 今、対面で大変だから何とかしてくれというお話は、私は聞いてないです。

前に出た要望に対しての西浦2号線の工事については進めておりますので、それについては進めていく段取りになりましたけれども、それがさらにという話はまだ聞いておりません。

【副市長】 手のあたりですか。手のあたりに市道はないですよ。

【市長】 前に出た要望に対しての、西浦2号線の工事については今進めておりますので、それについては進めていく段取りになりましたけれども、さらにという話はまだ聞いておりません。

【記者】 それは広がる工事なんですか。

【副市長】 手といいますと、西浦2号のトンネルがつくところあたりなんですけれども。それ以外にもう1本、今年度調査していますけれども、トンネルを掘る予定にしております。それは市の事業でやることになっています。手のあたりというと、その事業のことをおっしゃっているのかなと。そういうことで、今あそこはちょっと細くて曲がりくねっているんですけれども、そこについては……。

【市長】 ちょっと場所を聞かないと。済みません。

【建設部長】 場所を後で言ういただければお話しします。

【記者】 後でまた。

【秘書広報課長補佐】 それでは、ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、これを持ちまして8月の市長定例記者会見を終わります。

ありがとうございました。

午後2時6分 終了